

第83回北数教数学教育実践研究会

観点別評価の実践例について

期日 平成24年12月 1日
会場 アスティ45ビル
10階セミナールーム

北海道札幌手稲高等学校
教諭 木村 郁夫

1. 観点別評価とは

各教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えるもの。

ペーパーテストを中心とし、
いわゆる平常点を加味した評価（7：3や8：2等）
とは根本的に異なる。

2. 観点別評価を導入する目的

現状として、

(1) 高等学校に多様な興味・関心を持つ生徒が在学している（高校進学率98%）。
(2) 卒業後の進路も多様である。

教育の質の向上と保障を今まで以上に図る必要がある。

新しい学習指導要領における学習評価の基本的な考え方

学習指導と学習評価を一体的に行い、生徒の学習内容の確実な定着と、教師の授業改善につなげる。

観点別学習状況の評価の実施を推進し、これらの実現をはかる。

評価規準 (のりじゅん)
 学習指導のねらいが、生徒の学習状況として実現されたとはどのような状態になっているかについて、具体的に示したもの。

評価基準 (もとしゅん)
 評価規準で示したつけない力を、どの程度まで習得しているかについて、数値、記号または文章表記で示したもの。

科目・内容の特性に応じて、観点ごとに評価規準を作っていくことが必要。
 大枠 → 科目 → 章 → 節 → ...

3. 観点別評価のしかた

第1段階
 観点ごとに設けた評価規準に、生徒の学習状況を照らし合わせ、評価を
 A ... 「十分満足できる状況」と判断されるもの
 B ... 「おおむね満足できる状況」と判断されるもの
 C ... 「努力を要する状況」と判断されるもの
 の3段階でつける。

評価規準としては、評価基準がBとなる状況を設定する。

評価規準 (観点)	評価基準	評価結果
直接測ることのできない木の高さを、三角比を活用して測ることができる。(関心・意欲・態度)	木から測量する人までの距離、木を見上げる角度、地面から目までの高さなど、必要な量について述べ、タンジェントを用いて木の高さを求めることができる。	A
	タンジェントを用いて木の高さを求めることができる。	B
	評価Bに達していない。	C

評価規準を設定するたびに、評価基準を考える必要がある。

第2段階
 観点ごとに総括結果 (A, B, C) を決める。
 考え方1 ... 評価結果A, B, Cの各個数を求め、その割合をもとに決める。
 考え方2 ... 評価結果A, B, Cを数値に変換し、その合計をもとに決める。

第3段階
 観点ごとの総括結果 (A, B, C) の状況から、総括して5段階の評定を出す。

総括結果 (関・意・態)	総括結果 (見方・考え方)	総括結果 (技能)	総括結果 (知・理)	評定
A	B	A	A	5
A	C	C	B	3

A, B, Cの割合と評定1~5の対応に整合性を持たせる必要がある。
 例えば、オールBなら3、オールAなら5とするのが妥当。

4. 前任校における観点別評価の実践例

- 学校の概要** 全日制普通科3間口、商業科1間口、事務情報科1間口
 全校生徒数600名弱
- 地域の実態** 根室市内にある本校と根室西高の2校に、市内の生徒の多くが入学する。
 他地域への流出は少数（年度によってばらつきあり）
 他地域からの流入は非常に少ない。
- 生徒の実態** 挨拶ができ、礼儀正しい純朴な生徒が多い。
 進路状況は多岐にわたり、学力差が非常に大きい。

進路の状況（普通科）

年度	H20	H21	H22	H23
卒業者数	120	117	117	116
国公立大学	20	17	15	21
私立大学	31	37	35	30
短大	8	8	9	10
大専校	0	2	1	0
専修学校・看護学校	35	30	38	26
就職	16	16	15	15
その他	10	7	4	14

対象クラス 平成21年度普通科入学生

- ※ 観点別評価を本格導入したのは、平成21年度が最初。
 （従来の評価は、ペーパーテストを中心とし、平常点を加味した評価。）
 → 従来の取り組みを観点別評価に変換する形式で行った。
- ※ 商業科・事務情報科入学生については、評価基準が若干異なる。

まず、評価規準・評価基準・総括結果を次のように定めた。
 （旧学習指導要領の学年のため、現在とは4観点が変わります。）

観点	評価規準	評価材料	評価基準	評価	換算点	総括結果
関心・意欲・態度	数学に対して興味、関心がある。数学（授業）に対するやる気がある。	土日の数学	概ね8割以上の問題に平均がついており、解答もほとんどがきちんとなされている。	A	2	A 総点を積算し、満点に対する割合が50%以上
			平均的な内容の問題に平均がついているが、その基準に達していない。また、提出課題遅れなど、若干の平常点がある。	B	1	B 総点を積算し、満点に対する割合が50%以上
			評価日に進していない	C	0	C 総点を積算し、満点に対する割合が50%未満
知識・理解	基本的な内容を理解している。	テスト 毎日の数学	得点を積算し、満点に対する割合に評価基準を設け、A B Cの総括評価を決定する。			A B
表現・処理	応用的な内容を理解している。	テスト 長期休業の数学	得点を積算し、満点に対する割合に評価基準を設け、A B Cの総括評価を決定する。			A B
数学的な見方・考え方	発展的な内容を理解している。	テスト	得点を積算し、満点に対する割合に評価基準を設け、A B Cの総括評価を決定する。			A B

そして、4つの観点の総括結果から5段階評定への換算を次のように定めた。

4つの観点の総括結果				5段階評定
A	A	A	A	5
A	A	A	B	5
A	A	A	C	4
A	A	B	B	4
A	A	B	C	4
A	A	C	C	3
A	B	B	B	3
A	B	B	C	3
A	B	C	C	3
A	C	C	C	2
B	B	B	B	3
B	B	B	C	3
B	B	C	C	2
B	C	C	C	2
C	C	C	C	1

5. 観点別評価を実践して

メリット

- (1) **学習改善につながる**
評価規準を通して、学習のめあてや学習の重点を明確に知ることができる。
学習後の評価によって、注意して学習すべき点に分かる。
- (2) **学習意欲の向上につながる**
目標に対して、生徒一人一人が進歩したところ、他と比べて優れているところなどを把握することができる。
- (3) **進路希望の実現につながる**
さまざまな観点での評価を行い、伸ばしていくことを通じて、大学等が生徒に様々な資質能力を求めていることに応えていくことになり、進路希望の実現に役立つ。
- (4) **高校からの質の保証**
生徒の有する意欲や様々な資質能力、将来の可能性等を適切に評価することにより、高校における質の保証となる。

課題

- (1) **本来のやり方とは距離がある**
各単元で評価規準を設定し、
判断材料と到達度に応じた評価基準を用意することが必要。
- (2) **各評定の人数がいびつになる。**
プリント類の提出率が非常に高い（生徒の意識+教員指導の成果）
テストの難易度
- (3) **評定と実力の乖離がみられる**
点数を取らせる指導≠理解させる指導
家庭学習の不足

6. まとめ

- (1) **観点別評価は難しくない**
 - ア 生徒の良いところをもっと評価するという姿勢で。
(評価の**見方**を変えれば、指導法改善の**味方**に変わる)
 - イ 従来の取り組みを、観点別評価に変換することが第一歩。
- (2) **日頃の自分を見つめなおす**
 - ア 教材研究を重ね、つねによりよい授業を目指す。
(教科指導のプロとして)
 - イ 日頃から、様々な場面で生徒とコミュニケーションをはかる。
(分かる授業は、生徒との信頼関係から生まれる)

参考文献

1. 新興出版社啓林館教科教育研究所「学校経営CS研レポートvol. 51」2004. 4
2. 文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」2010. 3
3. 国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 数学）」2012. 7
